ミュージックジャーナル

中秋の名月

山帆米美

第83回こども定期演奏会開さい!!
～秋の風景～

9月4日、夏の暑さが残る秋の日に、サントリーホールでこども定期演奏会が開かれました。今回は、川瀬賢太郎さんの指揮でピアノソリストの角野隼斗さんとともに東京交響楽団が音楽を届けてくれました。こども定期演奏会は、生活の中にクラシック音楽を取り入れてほしいという願いで開かれています。

マエストロ川瀬さんが作り出すすばらしい演奏会

身体を大きく使って、ダイナミックにタクトをふる指揮者の川瀬さん。指揮者としてどのようにすばらしい演奏を作り上げているのでしょうか？

川瀬さんは、演奏会の3ヵ月前から、楽譜を毎日見るそうです。川瀬さんに楽譜を見せていただきました。指揮者の楽譜は全ての楽器のフルスコアです。これを頭に入れるのは、大変なことだと思います。しかし、川瀬さんは、毎日楽譜を見ていると、完ぺきに覚えてしまうそうです。例えば、ドラえもんとちびまるこちゃんが入れかわったらだれでも分かりますよね？そんな感覚で演奏に少しの間ちがいがあるだけでも気付けるのだそうです。リハーサルでは、川瀬さんが「きふ人の笑い声のようにホッホッホという感じでお願いします。」と声をかけると、イメージにぴったりの演奏になりました。指揮者と演奏者は、上下関係ではなく、フェア平等です。指揮者と演奏者が一しょになって私たちに、すてきな音楽を届けてくれるのです。

取材の様子
写真提供：サントリーホール©池上直哉

ピアニスト角野隼斗さんにインタビュー

リズミカルな演奏を聞かせてくださった角野さんにインタビューさせていただきました。2018年にサントリーホールでひいたラフマニノフのピアノコンチェルトが一番印象に残ってしょうです。いつかこの演奏会でもじょうたいでパフォーマンスできるようにします。表ぶたいに出ることはありませんが演奏会のスムーズな進行管理に欠かせないポジションです。私たちが演奏会を思うぞんぶんたんのうできる時間をていきょうしてくださっていることに感謝したいですね!!

こきゅうを意しきしてピアノを上手にひくコツとは？

こきゅうを意しきしてピアノをひくと上手に演奏できるそうです。けんばんハーモニカを使うようになって、楽器をひく時のこきゅうの大切さを知ったそうです。演奏してくださった「ディンカーランド」は、トイピアノのかわいい音色と、けんばんハーモニカのアコースティックな音色が組み合わさったおどるように楽しい曲でした。

こども定期演奏会をささえる人たち
～ステージマネージャー～

取材を通じて、演奏会のために、たくさんの人がぶたい以外で働いていることが分かりました。今回は、ステージマネージャーという仕事を紹介します。ステージマネージャーは、楽器をぶたいにセットして、演奏者がベストなじょうたいでパフォーマンスできるようにします。

リハーサルの様子